

# 関東南部のトウモロコシ二期作

関東南部では、1作目にRM100~110、二作目にRM125~135の品種を利用することにより、トウモロコシ二期作ができる。トウモロコシ二期作は、土地生産性に優れ、自給飼料の増産により飼料費が低減できる。

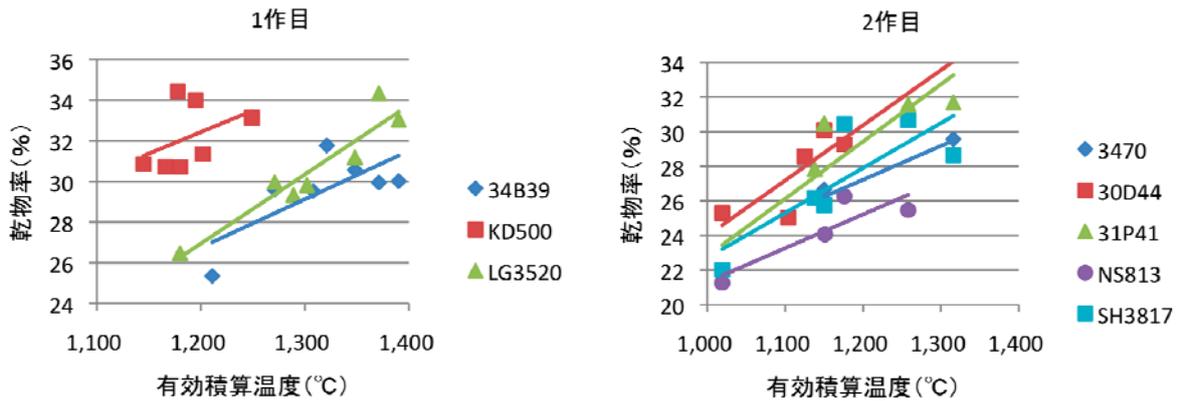


図1 飼料用トウモロコシの栽培期間の有効積算温度と乾物率の関係

サイレージ調製に適する乾物率 28%となる栽培期間の有効積算温度は、1 作目は KD500 (RM100) が 1,000°C、2 作目は 30D44 (RM135) が 1,130°Cであり、最も早く収穫適期となる。

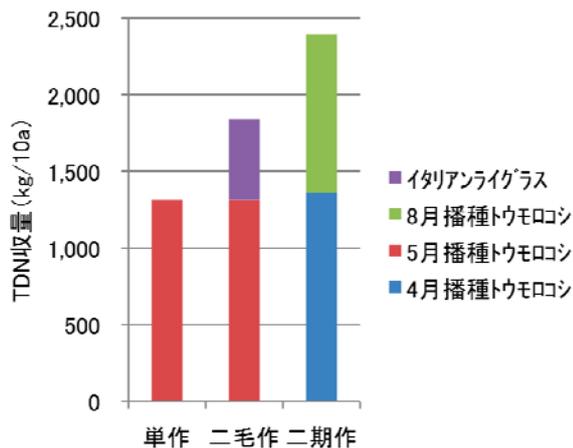


図2 作付体系による TDN 収量の比較

年間の TDN 収量は、二期作は単作より 80%、二毛作より 30%多収となる。

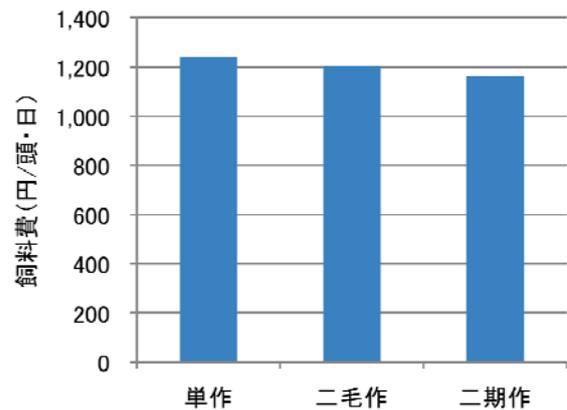


図3 作付体系による作乳牛の飼料費の比較

搾乳牛 30 頭、飼料畑 170a のモデルケースでは、搾乳牛 1 頭当たりの 1 日の飼料費は、二期作は単作より-79 円、二毛作より-42 円となる。